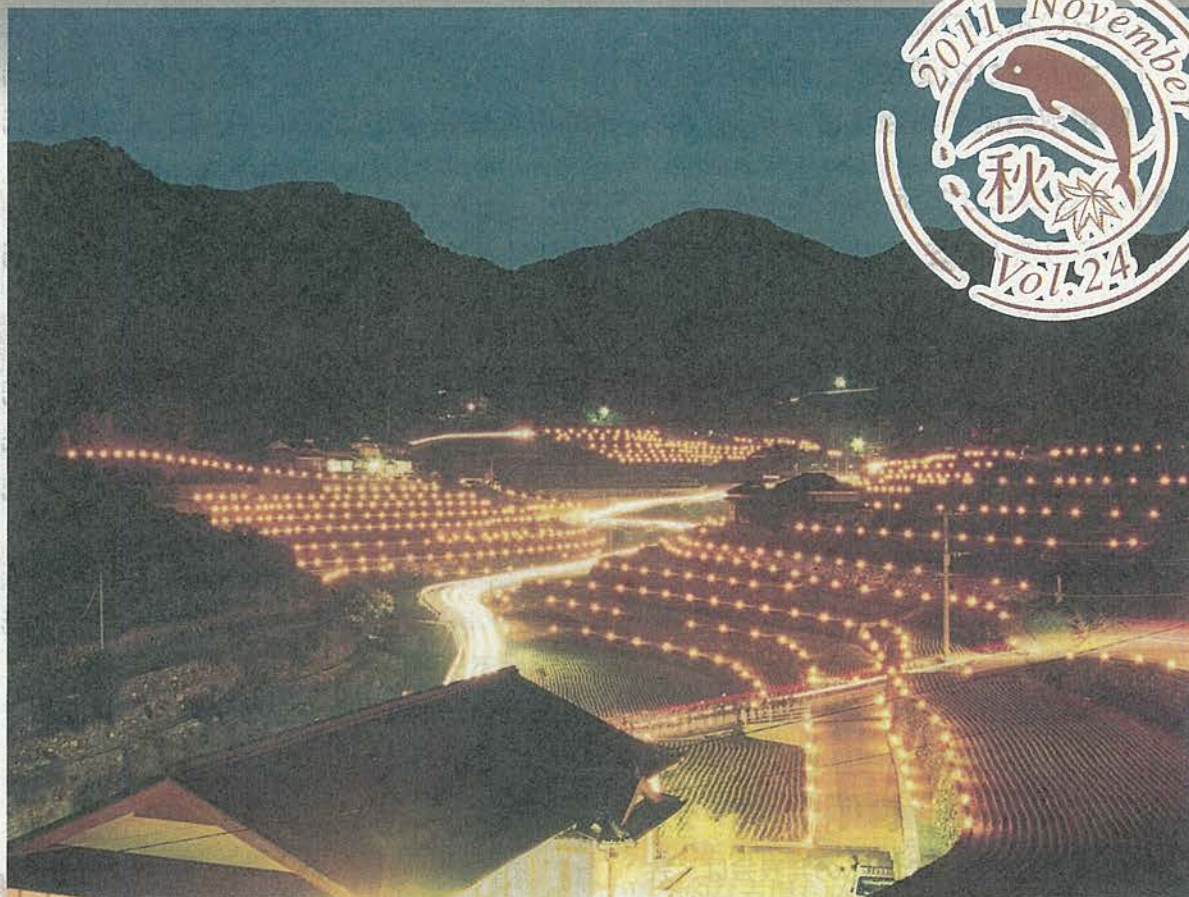


アナメリ がわら版



火祭り (川棚町木場棚田)

CONTENTS

- 第1回大村湾環境ネットワーク活動発表会 2
- 九州 大村湾 大地に囲まれた小宇宙 3
- 「大村湾の貧酸素低減による水質・底質改善と生態系回復に向けた実験的研究」の実施について 4
- 本当の大村湾再生のみち 5
- 旧長崎オランダ村施設の一部を一般公開しています 6 7
- 海辺ってこんなにゴミがあるの? 8



第1回

大村湾環境ネットワーク活動発表会

基調講演

「閉鎖性海域の汚染と防止」 東京海洋大学大学院 海洋科学技術研究科 准教授 中村 宏氏

活動発表

★NPO長崎海洋環境研究会

「NPO法人の設立と今後の活動」 (理事長 山中 孝友氏)
「アナアオサの肥料化、鶏飼料化の研究成果」 (理事 大場 和彦氏)
「底質改良剤<水酸化マグネシウム>試験散布結果報告」 (理事 吉野 由喜男氏)

★NPOコミュニティ時津

「NPO法人コミュニティ時津はこんな活動をしています」 (理事長 青山 泰氏)

★清流会東彼杵

「彼杵小学校における環境学習の取り組み」 (代表 池田 健一氏)
(川棚町立小串小学校校長 横尾 純子氏)
(遠賀川水辺館 めだかの学校校長 坂本 栄治氏)

★長崎南部森林組合大村支所

「森林組合の活動紹介」 (支所長 野口 三男氏)

去る4月23日、大村市コミュニティセンターにおいて「第1回大村湾環境ネットワーク活動発表会」を開催しました。この発表会は、会員相互の情報交換の場とすることを目的として計画したものです。基調講演では、「閉鎖性海域の汚染と防止」と題して全国の事例を紹介いただき、そのあと4団体から活動内容を発表してもらいました。意見交換のあと、直接交流していただく場として名刺交換の時間を予定していたのですが、各団体からの熱心な発表でタイムオーバーとなり、残念ながら実現しませんでした。次回(12/3開催予定)からは、内容を工夫しながら実施してまいります。



九州 大村湾

大地に囲まれた小宇宙

民宿 海幸 代表者 増山 英孝

もし何も知らずに外海から佐世保湾へ入って来たとしたら、まさか、この奥にもう一つ大きな湾が存在するとは夢にも思わないだろう。

その隠れた海、大村湾への航行可能なルートは、自然が造った、たった一本の水路のみ、文字どおりの「海中海」である。日本でも類まれな地理的条件にあるこの海は、大小さまざまな入り江に恵まれており外海からの波も入らないため、船遊びをするには絶好の小宇宙を形成している。私は、川棚町三越郷で民宿を経営しているが、宿泊者のほとんどから淡水湖ですかと尋ねられる。

船で通れる大村湾唯一の出入口、針尾瀬戸。陸は西海橋で結ばれ、観光名所となっている。海は細い水路のため潮流が激しく、10ノットを超えることもあるという。大村湾は、南北約26km、東西約11kmの琵琶湖のほぼ半分にあたる大きさで、見事なまでの内湾である。湖と見間違ふほど周りを陸で囲まれたこの湾は、昔から「琴の海」とも言われてきた。

最近、日本各地は国内の旅行離れで冷え切っており、アジアゲートウェイの考えが必要である。これからは逆に、アジアから日本へ如何にして流れを変えられるかが、国内の観光地の最大のポイントである。

私は、内湾のさらに奥である小串一帯のビーチ周辺で、力強く継続出来る事業として、太陽光によるクリーンエネルギーを利用した環境にやさしいソーラーボート大会や、人力ボート大会をぜひ実現させたいと思っている。国内（工業高校、愛好会、企業等）や国外（国際交流の場とする）からの参加者や若者達に大いに興味と関心をもってもらいたい。観光の主題（鍵）は、みんなが参加しているという雰囲気である。

長崎空港、ハウステンボス以外にも、大村湾周辺全域で有効活用を図っていく必要があると思う。そのためには、県や関係市町の積極的な支援も必要である。



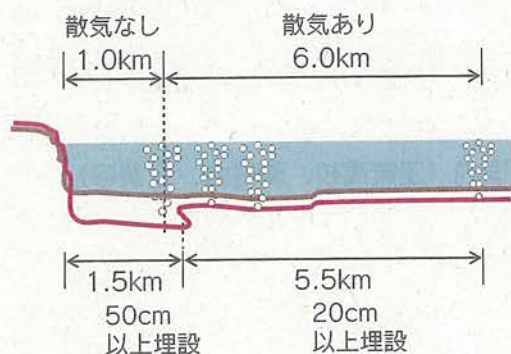
「大村湾の貧酸素低減による水質・底質改善と生態系回復に向けた実験的研究」の実施について

長崎大学水産・環境科学総合研究科 教授 中田 英昭

長崎県環境保健研究センター 研究部長 山口 仁士

長崎大学では、県環境保健研究センターなどの協力を受け、大村湾における実験的研究を6月1日から開始しました。

この実験は、尾戸半島（又兵衛港）から真東に長崎空港方面に向け海底に埋設した直径4センチ、延長7kmのホースの先端6km部分から空気を吹き出すものです。空気は45m間隔で開けた133個の孔から吹き出します。全体で1分間あたり1,260リットルの空気を吹き出すので、1個の孔から1分間に9～10リットル吹き出すこととなります。

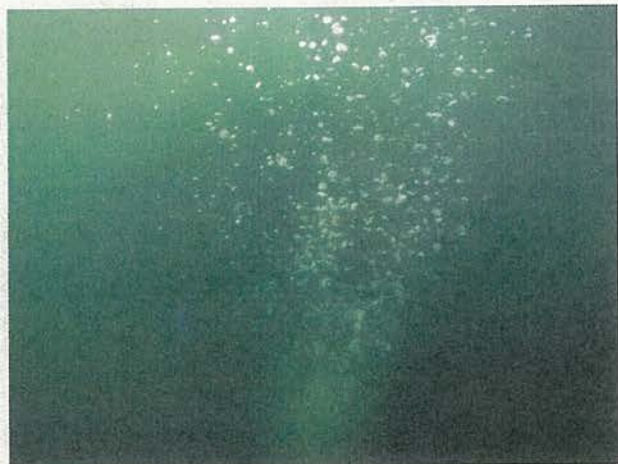


大村湾の中央付近は、毎年、貧酸素化が最も激しい水域で、ここで出来た無酸素水塊が青潮などの原因となっていました。この実験的研究は、大村湾の貧酸素化軽減の効果や、水質・底質の改善と生態系の回復効果を調査研究することを目的としています。閉鎖性内湾で大きな問題となっている貧酸素化や、それに伴う水質・底質の悪化、青潮発生、生態系劣化に対し、比較的安価で持続性のある解決法として海底から空気を吹き出す手法（散気）を取り上げ、その環境修復の効果を検証しようとするものです。

この実験は3年間の計画で、毎年6月から9月までの4ヶ月間、24時間連続して散気することとしています。本年度は実験初年度のため、全体で毎分400～600リットル（30～50%）に抑えて開始していますが、来年度からは100%の空気量で施用する予定です。



埋設したホースから吹き出る気泡



海中を上昇する気泡群

本当の大村湾再生のみち

「大村湾の再生と活用を推進する会」事務局 平部 顕達

私たちの会は平成14年から活動を開始しました。“湾の状況をしっかり考えて対策を提言、実行しよう”が会の目的です。今まで講演会やシンポジウムを行ってきました。最近では会員も減り（但しコア的メンバーは健在です）表立った活動は出来ていませんが、今迄の活動結果をまとめたレポートを昨年、CDで出しました。（ご入用の方はまだ少々残部があります）以下、会が大村湾についてどう考えているかを述べます。

大村湾の漁獲は大きく減少し、青潮なども頻発しています。これは特に津水湾で顕著ですが、この原因は高度成長期以来の開発にあります。我々人間は自分たちのために浅場や干潟を埋め立て、山や田園を大規模な住宅団地に変えてきました。その結果、湾の浄化能力は減り人口も増大して、流入負荷は増大しました。漁業回復（生態系回復）はみんなの望みですが、ここまで傷めつけた以上、簡単に元に戻る訳はありません。思いつきの対策では、効果は限られますし長続きしません。回復するためには、本質に立ち帰った対策が必要です。大事な事は次のことです。

- 減少した浄化能力の回復を図ること
- 流入負荷を減らすこと
- 海底に溜まっている栄養塩類を減らすこと

そのためには、今後の「開発」についても検討が必要でしょうし、浅場の復活も考えねばなりません。また、水質・底質改善のためには海中に酸素を供給する事が大事で、これにより豊かな生態系が必ず回復出来ます。

このまま放置して根本的な手が打てなければ、今津水湾で起こっていることは湾の少なくとも南半分には広がるでしょう。

幸いな事に長崎県等により大村湾の「健康診断」が行われ、処方箋が作成されました。今後は処方箋の具体化と実施が問われる事になります。大村湾は長崎県の宝、県民一致して本質的対策を実行に移したいものです。

旧長崎オランダ村施設の一部を

～オランダ村はここがすごい～



波静かな大村湾に浮かぶようにして立つオランダ村は、今年5月23日から一部区域を一般公開しています。商店等は開いていませんが、オランダの建物を忠実に再現した街並みの中を、ピクニック感覚で訪れてはいかがでしょうか？30年近い時を経て、この場所になじんだ建物がオランダ本国にいるような味わいを出してい

ます。すごいのは目に見えるところだけではなく、足元がすごいのです。街並みのスペースは埋立を行わず、海底にたくさんの鋼管杭を打ち込んだ上に鉄骨を渡し、その上にデッキや通りや建物までも乗せているのです！だから足元のかなりの範囲は海の上にあります。「海と陸が接するところは生物にとって重要なすみかだからコンクリートで遮断してはならない」という考え方から、オランダ村の足元は建設以前の自然の海岸線を残しているのです。



オランダ村オープンは、今から約30年前の昭和58年、科学技術の発展と開発こそが人間を豊かにしてくれるとの風潮が世に満ちていた頃に、環境優先の建設を行っていたのです。

一般公開は午前10時から午後3時までです。正面玄関をに入って右側の観光協会窓口で入場受付を済ませ、ご入場下さい。場内に売店はありません。飲食スペースはありますが、ゴミはお持ち帰りをお願いします。

また、オランダ村施設の補修や除草を行ったり、未公開区域の見学ツアーができる「オランダ村ファンクラブ」会員を募集しています。興味のある方は一度お問合せ下さい。

お問合せ先

西海市役所まちづくり推進課
電話(0959)37-0064

一般公開しています

西海市役所まちづくり推進課 作中 修

～オランダ村に被災者の元気なかけ声～



東日本大震災の被災者支援として県が企画した「東北3県ふれあい体験事業」の一環で、8月20日、被災者家族25人がオランダ村でペーロン競漕を体験しました。

波静かな大村湾の中でも特に穏やかなオランダ村前面の海は、シーカヤックやペーロンなどのマリンスポーツに適しています。これまでも、オランダ村の再生に向けて海の活用は重要なポイントだとのご意見を多くの方からいただいています。

そこで今回の企画を機に、オランダ村の海を活用したイベントの可能性を試してみたいと、体験ペーロンの実績を重ねている大瀬戸ペーロン振興会の協力のもと、オランダ村催事実行委員会の支援も受けて実施しました。

競漕は、地元の子もたちと被災者家族の混成で2チームを編成し、3レースを行いました。初めて見るペーロン舟に、乗り込む時にはとまどいも見られましたが、ペーロン振興会スタッフのユニークな指導を受けて、大きな掛け声とともに笑顔で漕いでいました。

参加者のうち、気仙沼市から参加した母親は「子どもたちが海と出会ったのがあの津波だったので、海の体験が大丈夫かなと心配しましたが、子どもたちはすんなり乗り込んで楽しんでいたので良かった。私も楽しかったです。」と話していました。オランダ村から東日本に元気を届けた1日でした。



執筆者よりお断り

本稿では「旧長崎オランダ村施設」を、皆様に親しみを持っていただくために単に「オランダ村」と表記していますのでご理解のうえ容赦下さい。

海辺ってこんなにゴミがあるの？

時津町B & G海洋センター 尾崎 聡

時津町B & G海洋センターは大村湾に面した恵まれた環境を生かし、小学生を対象に毎年夏休みの教室の一つとしてジュニアマリンスポーツ教室を開講しています。

この教室は全5回で行われ、カヌーやローボートなどのマリンスポーツを通して海に慣れ親しみ、最終回には無人島での海水浴を楽しむといった内容になっています。

特に今回実施した教室では、子どもたちに海の環境について考えてもらおうといった主旨から、海水浴の際に海辺のクリーン活動を行いました。子どもたち1人1人が海辺に漂着したゴミや海水浴にきた人たちが残していったゴミなどを一生懸命に拾い集め、綺麗な海辺を作ろうと頑張っていました。参加者の中には「何でもみんなこんなにゴミば捨てると!？」とか「こんがんにゴミのよー流れ着くね」といった声もあり、多少なりとも環境についての意識が芽生えた様子も見受けられました。

今後は、子どもたちにこのような素直な気持ちを持ち続けてくれるよう働きかけると共に、安心して海に慣れ親しんでもらえるよう水辺の安全教室なども実施していきたいと思ひます。



クリーン活動中



ゴミを集めての集合写真

大村湾周辺にお住まいの
皆様の情報誌です。

ズナメリ
がわら版

平成23年11月発行
編集・発行/長崎県環境政策課
〒850-8570 長崎市江戸町2-13
TEL 095-895-2355
FAX 095-895-2566



■ 大村湾に関する環境情報を提供してください。 ■

- 長崎県環境政策課 ◎電話 095-895-2355 ◎FAX 095-895-2566
◎E-mail omurawan@pref.nagasaki.lg.jp
- 長崎市環境保全課 ◎電話 095-829-1156 ◎FAX 095-820-0316
- 佐世保市環境保全課 ◎電話 0956-26-1787 ◎FAX 0956-34-4477
- 諫早市環境政策課 ◎電話 0957-22-2570 ◎FAX 0957-22-2579
- 大村市環境保全課 ◎電話 0957-53-4111 ◎FAX 0957-54-0404
- 西海市環境政策課 ◎電話 0959-37-0011 ◎FAX 0959-23-3101
- 長与町環境対策課 ◎電話 095-883-1111 ◎FAX 095-883-2061
- 時津町住民環境課 ◎電話 095-882-2211 ◎FAX 095-881-2764
- 東彼杵町町民生活課 ◎電話 0957-46-1111 ◎FAX 0957-46-0884
- 川棚町住民福祉課 ◎電話 0956-82-3131 ◎FAX 0956-82-3134
- 波佐見町住民福祉課 ◎電話 0956-85-2111 ◎FAX 0956-85-8161